

		令和5年度 西東京市立ひばりが丘中学校 学校評価			5：達成率90%以上 2：達成率40%以上			4：達成率80%以上 1：達成率40%未満			3：達成率60%以上		
学校教育目標		広く国際社会を創造性豊かに、たくましく生きる人をめざして ・自ら学ぶ ・豊かな心 ・夢の実現											
目指す学校像	【目指す学校像】	「地域、保護者の期待に応える学校」●生徒の力を伸ばし、一人一人が主役となる学校●生徒、保護者、地域から信頼を寄せられる学校●組織力が高く、柔軟な対応力や確実な実行力のある学校											
	【目指す生徒像】	「知・徳・体のバランスがとれた生徒」●授業を大切にし、自ら考え主体的に学ぶ生徒 ●豊かな心を育み、夢の実現を目指して未来を切り拓く生徒 ●健康と体力増進に自ら努める生徒											
	【目指す教師像】	「高い人権意識と実践的指導力をもつ教師」●人権意識を高くもち、『西東京あったか先生』を実践し体罰その他の服務事故ゼロに全力で取り組む教師●学習指導力、生活指導・進路指導力、組織貢献力、外部との県警折衝力をバランスよく高め学び続ける教師●共に高め合い学び続ける教師●働き方改革を実践し豊かな生き方を示すことができる教師											
本校の実態と課題		○昨年度はICTを活用した授業を通して生徒の意見や感想を取り入れながら、さらに効果的な指導を研究授業で検証するとともに、話し合い活動では、教科、領域全ての話し合い活動を全て「ひばりスタンダード」で行った。今年度は、昨年度開設した、西東京市の特別支援教育の理念を実現する特別支援学級を通して本校の特別支援教育を充実させるために、通常学級と特別支援学級の教員の強力な連携を図り、生徒を一人も取り残さないあたたかな学校づくりの基盤とする。											
具体的方策		取組指標 (教員)	成果指標 (生徒)	成果指標 (保護者)	学校の取組及び改善策			学校関係者評価記入欄					
自ら学ぶ力の育成	ねらいを明確にし、生徒が主体的に課題に取り組み、ねらいに基づいた振り返りの活動を充実させ「主体的・対話的で深い学び」を実現する質の高い授業を実践する。	5	5	3	すべての教員が意識をして研究授業を行っている。日常の授業においても、生徒が興味をもてる『ねらい』の提示の仕方を工夫したり、振り返りで本時の内容を確認させたりして、時間単位で身に付ける力を明確にしている。その結果、生徒は「授業はわかりやすいか」「授業のねらいや目標がわかりやすいか」「先生はわかりやすい授業を進めるための工夫をしているか」という質問に高い評価を下している。			教員も生徒もわかりやすい授業となっていると評価していることは良いと思う。このまま工夫のある授業を続けてほしい。保護者に対しては、授業参観において「見るポイント」などを示すなどで、学校の取組を伝えることを心がけるとよい。					
	授業内の活動において、記録する・要約する・説明する・論述する場面をより多く設定する。生徒が自分の考えをまとめる活動や話し合い活動においては、「ひばりスタンダード」を全教科で共通の取組とし、生徒に主体的に学習活動に取り組ませる	5	4	3	昨年度より国語科で取り入れている話し合い活動における「ひばりスタンダード」であるが、今年度は4月に研修を行い、教科横断的にすべての教科で実践することに取り組んだ。既に全国学力学習状況調査では肯定意見が全国平均より9ポイント、東京都平均より8ポイント高い評価が出ているが、学活や道徳の場面でも、建設的に意見交換をする場面が多くみられるようになっている。			「ひばりスタンダード」の取組を通して、積極的な発言を導き出しており、意見発表等に成果を見せている。このような取組を保護者に伝えるための工夫などは今後の課題である。					
	学習用タブレット端末を効果的に活用するために、授業での教材の提示、調べ学習、思考過程の可視化、発表や発信、及び家庭学習を充実させる。	5	4		一昨年度より導入された一人1台のタブレットだが、手探り状態であった昨年度に比べ、今年度はデジタル教科書を含め、より活用の幅が広がった。また、「効果的な活用」の仕方について研修を行ったり、全員の研究授業に取り組んだ。その結果「授業内でICTを効果的に活用しているか」という質問に対しては、肯定意見が大半を占めているが、タブレットの活用の幅が広がるにつれて、特別教室棟のWifi環境の脆弱さが問題となっている。			タブレット端末を活用した学習は、生徒にとって視覚的にわかりやすく、評価できる。特別教室にWifi環境が整っていないので、特別教室棟の早急なWifi環境整備を望みます。					
	道徳授業を充実させ、生徒の心の成長を促すために、生徒の自己を大切に、他者を尊重し合う豊かな心を育てる指導を行う。	5	5	3	「道徳の授業を通して、自分の心を成長させ『豊かな心』の育成を図っているか」という質問に対しては、保護者の82%が肯定的な意見をもっており、生徒の94%が思いやりの心をもって生活を送っている。また、学校運営協議会において、道徳授業地区公開講座を参観していただいたときも「50分という短い中で、つかみがあり構成を立てて、クオリティの高さを感じる」と高い評価を受けている。また、特別支援学級の移動教室に際して通常学級の生徒が気に掛ける様子を見せるなど、今後もつながりの絆を深めていきたい。			道徳の授業では、先生も自分のことを話す場面もあり、温かみのある授業と感じた。また、道徳の授業を生徒が自分の生活にどのように活かしているかが大切なので、今後も生徒の行動を見守りたいと思います。					
豊かな心の育成	学校行事や生徒会活動、部活動などの諸活動を通して、生徒自身の学級・学年への所属感や自己有用感を育てる。	5	5	3	「行事・学級活動・道徳の授業などを通じて、自分の心を成長させることができている」と答える生徒の割合が95%となっている。また、3年生の面接練習においては、心に残った出来事として「運動会」や「合唱祭」をあげる生徒がほとんどであり、達成感や充実感がよく伝わってくる。また、これらの行事に対する保護者の評価も非常に高い。さらに、調査の結果「自分によいところがある」と答えた生徒が80%を超えている。			中学校生活の大切なところとして、行事等は欠かせない。クラスみんなで頑張った経験を大切にしてほしい。また、皆が「力を合わせる」事に達成感や充実感を持つ事が大切。「合唱祭」は本当に感動しました。					
	生徒同士でいじめられたり、無視されたりすることなく安心して学校生活を送れるように、教員間で生徒情報の共有を積極的に行い、いじめ防止および早期発見に努める。	5	4	3	すべての教員が「生徒情報の共有を積極的に行っている」と意識しており、日頃から『報連相確』を徹底して、いじめの防止、早期発見、早期解決に学校をあげて取り組んでいる。その結果、「いじめられたり、無視されたりすることなく、安心して活動できている」と答える生徒は97%にのぼっている。			小さな事から「いじめ」等の行動に発展することもあるので、教員は常にアンテナを張っていじめ防止等に務めていただきたい。引き続き児童館、地域の方を含め見守っていただけらと思います。気になることとして、若干名のいじめ、からかいについて否定的な意見の生徒へのフォロー等について知りたい。					
	挨拶や言葉遣い等の社会におけるルールやマナーの大切さを伝え、規範意識を高めるとともに、よりよい生活習慣を身につける	5	5	4	機に応じて「自分で考えて行動する」指導を継続している。その結果生徒は97%、保護者は83%が「時間・挨拶・言葉遣いなど、集団のルールやマナーに気をつけて学校生活を送る」ことができていると回答している。また、移転して2年余りが経ち、最初は心配していた地域の方々からも、ひばり中生としての振る舞いに評価を得ている。			生徒達は校内で会ったときなどにすぐ挨拶してくれたり、気配りができていると思う。社会規範意識の高さを感じます。					
	三年間を見通した進路指導計画により、生徒が自分及び自分の生き方に自信をもって進路を切り開いていけるように指導・支援する。	5	4	3	学校目標である「夢の実現」に向け、三年間を見通した進路指導に取り組んできた結果、生徒は中1の段階から「進路学習≠進学学習」ではないということを理解しているが、保護者への浸透が不十分な現状が見られる。今後もより進路学習について、学年通信やキャリアパスポートを活用して、取組の内容を積極的に発信していく必要がある。			より多くの体験や情報を利用して「将来」の事を考えていってほしい。家庭での会話も必要かと思えます。今後は、20代の先輩達がどのように夢を実現しつつあるか聞ける機会もあると良いと思う。また、他の項目にも同様のことがいえますが、保護者にどのような結果が伝わったかがポイントかと思われる。子どもが親に報告したくなる結果を伝えることも必要なのかもしれません。					
地域との連携	学校ホームページや学校便り・学年便りなどを通して、学校の教育内容や生徒の活動について積極的に発信し、理解と協力を得る。		5	5	毎日の学校HPの更新を通じて日々の取組の様子を、また、月1回の学校便りや、週に1度の学年便りでは、学校の考え方を積極的に発信してきた。その結果、生徒は99%、保護者は91%が好評価をしている。今後も、この取組を継続していくと同時に、保護者や地域の声にも、より一層耳を傾けていきたいと考える。			HPが随時更新されていて、学校のことがとてもわかりやすくなっている。保護者のポイントも高く、これをきっかけにもっと学校を地域に広げていけたら良いと思う。今後の課題として、子どもが親に報告したくなる結果を伝えることや、更に地域への発信を広げて行くための工夫があげられる。					
	部活動支援員や、学習支援員、SSSなど、外部人材の利活用や、経営支援部を充実させることにより、よりよい教育活動を展開するとともに、組織的に働き方改革に積極的に取り組む。	4	4	3	生徒と接する時間を増やしたり、自らをリフレッシュさせてよりよい教育活動を展開したりするために、働き方改革に積極的に取り組んでいる。そのような中、スタッフの活用により大きな成果を上げているが、同時に退勤時間を決め、業務内容の精選と仕事の効率化を図っている。			土日を含め、先生方が遅くまで働いている姿を見かけます。これだけ高いポイントを取っているのは先生方の苦勞の賜物だと思います。先生方も丁寧に対応しており、生徒にとってもありがたいことです。国として学校への予算や人材を増やさない大きく変えるのは難しいと思いますが、生徒も先生方も余裕をもって運営できるように、そして先生方が過勞で倒れないようにしっかりと働き方改革を進めて頂きたい。					